

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)

一県営畑地帯総合土地改良事業 (狩川工区)
に伴う埋蔵文化財確認調査事業報告書一

う と
宇 都 A 遺 跡
う と
宇 都 B 遺 跡
う と
宇 都 C 遺 跡

1994年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

新橋狩川地区で、ふるさと農道整備事業を行うにあたり、この地域は文化財の包蔵地にあるので、宇都A・B・C遺跡を平成5年12月6日から平成6年2月24日までの間発掘調査しました。調査面積は84㎡になりました。

この遺跡のすぐ近くに平成元年に発掘調査が行われた香ノ田遺跡があります。香ノ田遺跡では住居跡などの遺構は確認されませんでした。縄文時代早期の土器片が多数出土しています。今回の調査では調査区域の南東隅から縄文時代の遺物が出土しただけでした。

ほとんどが過去の造成によって既に破壊されており、発掘調査がもっと早く行われていたら相当な資料が得られたらと残念に感じるどころです。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

松山町教育委員会

教育長 川 畑 禮 二

例 言

1. 本報告書は、平成5年度に実施した県営畑地帯総合土地改良事業曾於東部（狩川工区）に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として、松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測、編集は、上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値は、すべて海拔絶対高である。
6. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。

本文目次

序文 例言

第1章 調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置及び環境	4
第3章 調査の概要	
第1節 調査の概要	8
第2節 標準土層	8
第3節 各トレンチの調査	9
第4章 まとめ	11

挿図目次

第1図 宇都A遺跡他の周辺の遺跡	4	第9図 6トレンチ北壁断面図	12
第2図 宇都A遺跡位置図	8	第10図 8トレンチ西壁断面図	12
第3図 標準土層図	9	第11図 9トレンチ西壁断面図	12
第4図 1トレンチ北壁断面図	10	第12図 10トレンチ東壁断面図	13
第5図 2トレンチ南壁断面図	10	第13図 11トレンチ東壁断面図	13
第6図 3トレンチ南壁断面図	11	第14図 12トレンチ東壁断面図	14
第7図 4トレンチ南壁断面図	11	第15図 13トレンチ北壁断面図	14
第8図 5トレンチ東壁断面図	11	第16図 14トレンチ北壁断面図	15

表目次

図版1 4トレンチ東壁断面図	16
図版2 9トレンチ西壁断面図	16
図版3 10トレンチ東壁断面図	17
図版4 14トレンチ遺物出土状況	17

表目次

第1表 遺跡地名表(1)	5
第2表 遺跡地名表(2)	6
第3表 遺跡地名表(3)	7

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町新橋狩川工区において畑地帯総合土地改良事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて昭和63年5月、文化課と町教育委員会で当核地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に3ヶ所の遺跡（宇都A遺跡、宇都B遺跡、宇都C遺跡）の存在していることが確認された。

この結果に基づき、県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）、町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護にかかわる協議が行われ、町教育委員会が調査主体となって県文化課の指導、協力を受けながら、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、県の受託事業として実施した。費用は総事業費 2,100千円で、うち県費補助 1,680千円、町費負担 420千円である。確認調査は平成5年12月6日から平成6年2月24日まで実施した。また、報告書作成事業を歴史民俗資料館において行った。

第2節 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会		
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長	川 畑 禮 二
調査事務担当者	”	管 理 課 長	佐々木 則 安
	”	参 事	古 市 克 人
	”	主 事	後 藤 由紀子
	”	主 事	西 村 和 美
	”	社会教育課長	吉 井 宏 徳
	”	主 事	祖母仁田 政明
	”	主 事	上 田 義 明
	”	主 事	遠 矢 康 成
	”	社会教育指導員	寺 山 重 隆
	”	庶 務 係	中 西 みよ子
調査担当者	”	主 事	上 田 義 明

なお、調査の企画等において、県教育庁文化課長向山勝貞、同課長補佐梅北一人、同主幹兼企画助成係長平野誠一、同主任文化財主事兼埋蔵文化財係長吉永和人の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

第3節 調査の経過

- 12月6日（月）宇都A遺跡・宇都B遺跡・宇都C遺跡調査開始。調査機材の搬入。発掘調査についての説明。第1トレンチ設定。
- 12月7日（火）第1トレンチ表土堀上げ第V層検出。出土遺物なし。
- 12月8日（水）第1トレンチ第VI層検出。出土遺物なし。
- 12月9日（木）第1トレンチ第VII層検出。出土遺物なし。
- 12月10日（金）第1トレンチ第VIII層検出。出土遺物なし。第2トレンチ設定。表土堀上げ。出土遺物なし。
- 12月13日（月）第1トレンチ層位断面図実測終了。第1トレンチ埋め戻し終了。第2トレンチIVa層検出。出土遺物なし。
- 12月14日（火）第2トレンチV層、VI層検出。出土遺物なし。
- 12月15日（水）第2トレンチVIII層面検出。出土遺物なし。第3トレンチ設定。表土堀上げ開始。
- 12月16日（木）第2トレンチ層位断面図実測終了。第1、2トレンチ位置図実測終了。第3トレンチIV層検出。出土遺物なし。
- 12月17日（金）第2トレンチ埋め戻し終了。第3トレンチV層検出。出土遺物なし。
- 12月20日（月）第3トレンチVI層、VII層上面検出。出土遺物なし。第3トレンチ層位断面図実測終了。第4トレンチ設定。
- 12月21日（火）第4トレンチ表土堀上げ、V層検出。出土遺物なし。第3トレンチ埋め戻し終了。
- 12月22日（水）第4トレンチVI層、VII層検出。出土遺物なし。第4トレンチ層位断面図、位置図実測終了。第4トレンチ埋め戻し終了。平成5年の作業終了。
- 平成6年
- 1月5日（水）平成6年の作業開始。第5トレンチ設定。表土堀上げ。II層、III層検出。出土遺物なし。
- 1月6日（木）第5トレンチIV層、V層検出。出土遺物なし。
- 1月7日（金）第5トレンチVI層、VII層検出。層位断面図実測終了。第6トレンチ設定。
- 1月10日（月）第6トレンチ表土掘り上げ、IV層検出。出土遺物なし。第5トレンチ埋め戻し終了。
- 1月11日（火）第6トレンチV層検出。出土遺物なし。第7トレンチ設定。
- 1月12日（水）第6トレンチVI層、VII、VIII層検出。出土遺物なし。第7トレンチ設定。
- 1月13日（木）第6トレンチ層位断面図実測。第5、6トレンチ位置図実測終了。第7トレンチ表土掘り上げ。
- 1月14日（金）第7トレンチ表土を掘上げるが、土地所有者が畑地の造成の際にかなりの土量を第7トレンチ付近に盛ったとの情報を得たため調査を中止。

- 1月18日（火）第6トレンチ埋め戻し終了。第8トレンチ設定。表土堀上げ。V層検出。出土遺物なし。
- 1月19日（水）第8トレンチVI層、VII層検出。出土遺物なし。
- 1月20日（木）第8トレンチVIII層検出。出土遺物なし。第8トレンチ層位断面図実測、第7、8トレンチ位置図実測終了。
- 1月21日（金）第8トレンチ埋め戻し終了。第9トレンチ設定。表土堀上げ、VIII層検出。出土遺物なし。
- 1月24日（月）第9トレンチVIII層検出。出土遺物なし。層位断面図、位置図実測終了。
- 1月25日（火）第9トレンチ埋め戻し終了。第10トレンチ設定。表土堀上げ。IV層検出。出土遺物なし。
- 1月27日（木）第10トレンチV層検出。出土遺物なし。
- 1月28日（金）第10トレンチVI層検出。出土遺物なし。
- 1月31日（月）第10トレンチVII層、VIII層検出。出土遺物なし。層位断面図実測終了。
- 2月1日（火）第10トレンチ埋め戻し終了。第11トレンチ設定。表土堀上げ。出土遺物なし。
- 2月2日（水）第11トレンチIV層、V層検出。出土遺物なし。
- 2月3日（木）第11トレンチVI層、VII層検出。出土遺物なし。第11トレンチ層位断面図実測終了。
- 2月4日（金）第11トレンチ埋め戻し終了。第12トレンチ設定。表土堀上げ。
- 2月8日（火）第12トレンチII層検出。出土遺物なし。
- 2月9日（水）第12トレンチIII層、IV層検出。出土遺物なし。
- 2月10日（木）第12トレンチV層、VI層、VII層検出。出土遺物なし。層位断面図実測終了。
- 2月14日（月）第12トレンチ埋め戻し終了。第11トレンチ、第12トレンチ位置図実測終了。第13トレンチ設定。表土掘り下げ。IV層検出。土器片数点出土。出土状況実測。
- 2月16日（水）第13トレンチV層、VI層検出。出土遺物なし。
- 2月17日（木）第13トレンチVI層検出。出土遺物なし。
- 2月18日（金）第13トレンチVII層、VIII層検出。出土遺物なし。層位断面図実測終了。
- 2月21日（月）第13トレンチ埋め戻し終了。第14トレンチ設定。表土堀上げ。
- 2月22日（火）第14トレンチIII層検出。土器片多数出土。出土状況実測。
- 2月23日（水）第14トレンチIV層、V層、VI層、VII層検出。出土遺物なし。層断面図実測終了。第13トレンチ、第14トレンチ位置図実測終了。
- 2月24日（木）第14トレンチ埋め戻し終了。全作業終了。調査機材搬出。

第2章 遺跡の位置及び環境

第1節 遺跡の位置及び環境

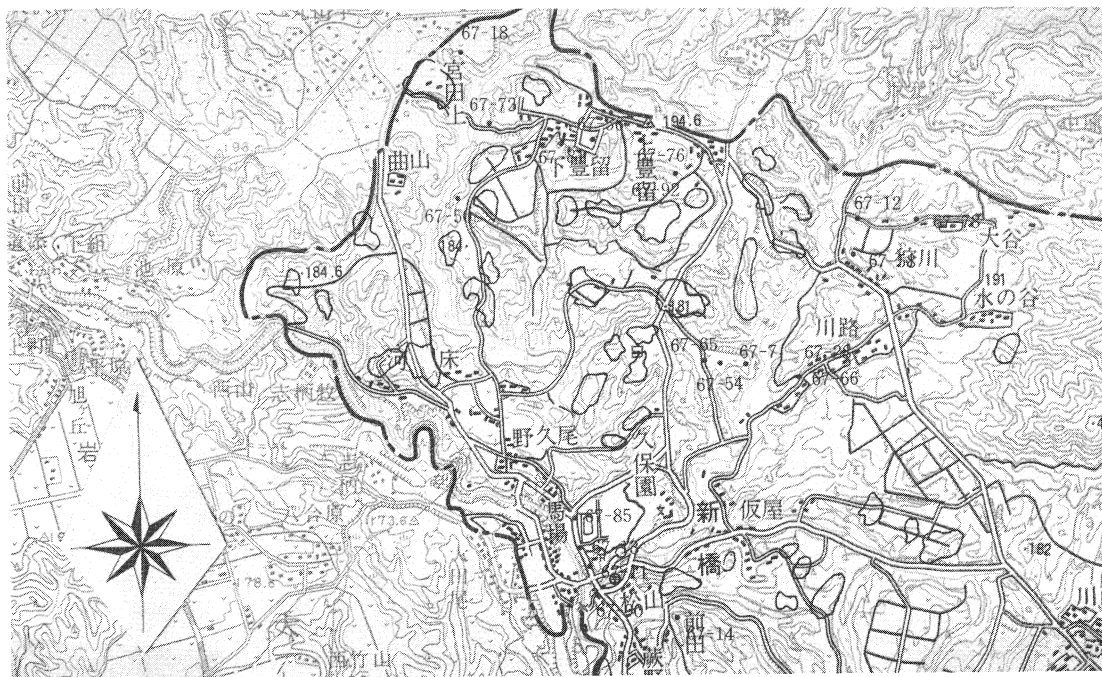
宇都A・B・C遺跡は鹿児島県曾於郡松山町新橋に所在する。水ノ谷遺跡は町役場から東に約2.5kmの標高約182mに位置し、町道中山豊留線を境にして東に香之田遺跡がある。両遺跡は同一の大地に立地している。

松山町は、大隅半島・曾於郡のほぼ中央で、経緯度13度から13度7分、北緯31度37分に位置し、東西12km、南北4kmの広さで、町の総面積は49.69k㎡である。また、東に志布志、西に末吉・大隅、南に有明・志布志、北が末吉と4町に囲まれている。

山岳は末吉町に境する宮田山(520m)、有明町に境する霧岳(408m)が主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と尾野見桃木東端と大続東端を流れる安楽川支流が主な河川である。

西部や南東部はおおむね火山灰台地である。特に、西部一帯は火山灰台地が広範囲に広がっている。またこれらの火山灰台地では侵食による開析が進み、大小の谷が発達し、各台地は独立した丘陵状をなしている。

松山町で現在確認されている遺跡は95ヶ所であるが、尾野見地区は12ヶ所だけで、そのほとんどが新橋地区に所在する。そのなかで、発掘調査が行われた遺跡は7ヶ所である。なかでも、昭和60年度に発掘調査が行われた前谷遺跡、昭和63年度に行われた前谷B遺跡、井手間・山ノ田遺跡では住居跡などが確認されている。また、昭和63年度に行われた稗ヶ迫B遺跡では旧石器時代の遺物が表面採取されており、まだ松山町で発見されていない旧石器の遺跡である可能性があったが、確認調査の結果、遺物包含層は確認されなかった。



第1図 宇都A遺跡他の周辺の遺跡

第1表 遺跡地名表

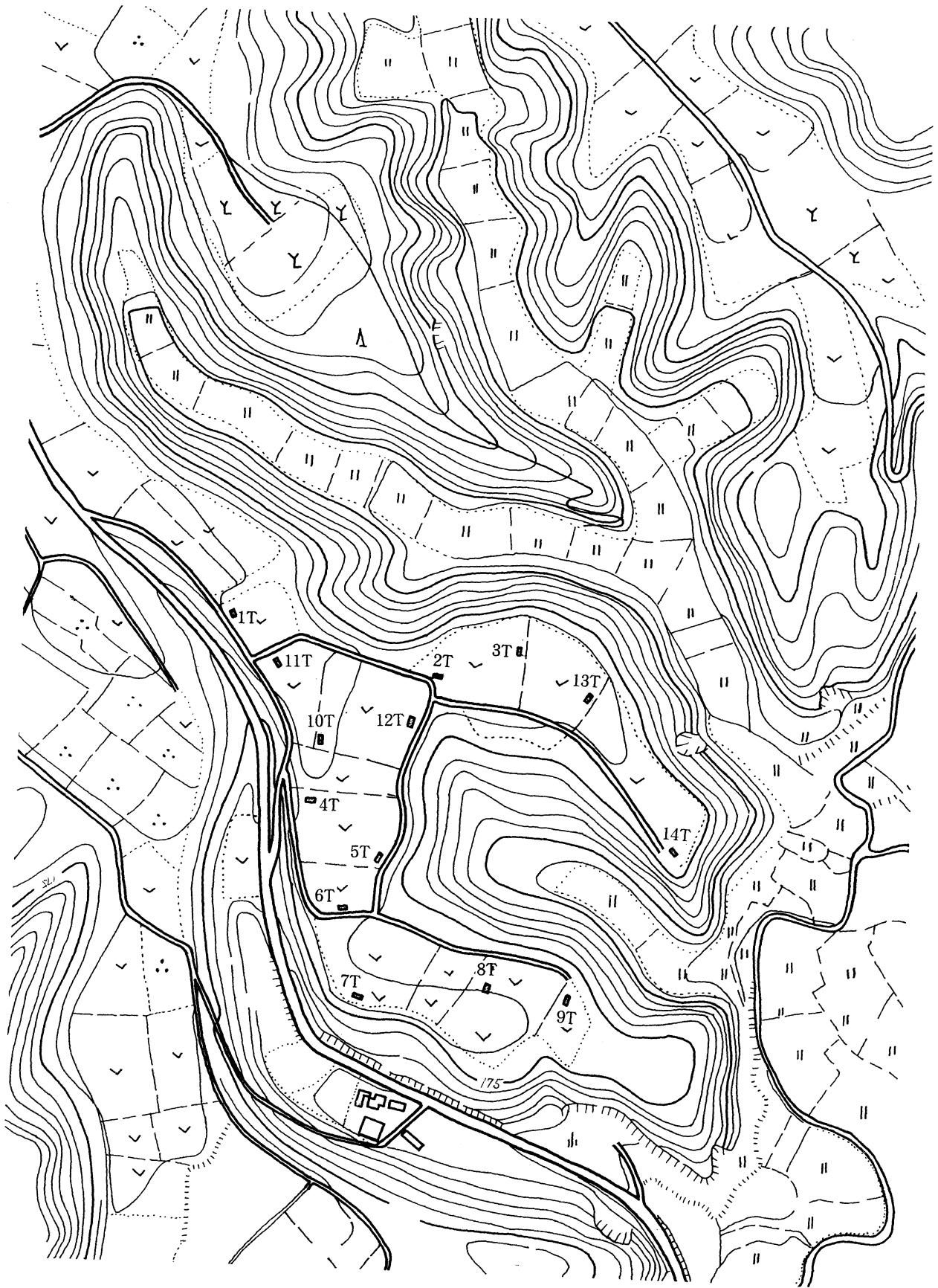
番 号	遺 跡 名	所 在 地	時 代						遺 構 ・ 遺 物	文 献	
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中生			近世
67-1	宇 都 谷	新 橋 字 宇 都 谷		○						前平式	
67-2	宇 都 D	新 橋 字 宇 都		○				○		吉田式・土師器 須恵器・黒曜石石鏃	
67-3	砂 田 A	新 橋 字 砂 田		○						石坂式・押型文・石鏃	
67-4	中 村	尾 野 見 字 中 村		○						前平式	
67-5	下 迫 C	新 橋 字 下 迫		○						塞ノ神式・姫島産黒曜石	
67-6	榎 之 俣	新 橋 字 榎 之 俣		○						塞ノ神式	
67-7	砂 田 D	新 橋 字 砂 田		○	○			○		轟式	
67-8	稗ヶ迫 C	新 橋 字 稗ヶ迫		○	○					轟式・岩崎式・土師器	
67-9	内ノ野 C	泰 野 字 内ノ野		○						塞ノ神式・打製石斧	
67-10	前ノ谷	泰 野 字 堀ノ内		○							
67-11	公会堂上	新 橋 字 公 会 堂 上		○						塞ノ神式	
67-12	狩 川 B	新 橋 字 狩 川		○						阿高式・敲石	
67-13	松 山	新 橋 字 松 山		○						阿高式・御領式 磨製石斧・敲石	
67-14	入道久保 A	新 橋 字 入 道 久 保		○						阿高式・石斧	
67-15	内ノ野 B	新 橋 字 内ノ野		○						阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67-16	郷 田	泰 野 字 郷 田		○						阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67-17	蛇山ノ谷	尾 野 見 字 蛇 山 ノ 谷		○	○					石匙・打製石斧	
67-18	垂 門 A	新 橋 字 垂 門		○						市来式	
67-19	下 迫 A	新 橋 字 下 迫		○	○			○		御領式・土師器	
67-20	堀 口	新 橋 字 堀 口		○				○		御領式・石鏃・青磁	
67-21	河 床	新 橋 字 河 床		○							
67-22	宇 都 A	新 橋 字 宇 都		○						松山式・石皿	
67-23	宇 都 B	新 橋 字 宇 都		○				○		須恵器	
67-24	宇 都 C	新 橋 字 宇 都		○						岩崎上層式	
67-25	中 村 迫	新 橋 字 中 村 迫		○				○		石皿・打製石器 土師器・須恵器	
67-26	山ノ田	新 橋 字 山ノ田		○				○		早期・松山式・土師器	
67-27	後 谷 A	新 橋 字 後 谷		○						指宿式	
67-28	上ノ原	新 橋 字 上ノ原		○						綾式・岩崎上層式	
67-29	入道久保 B	新 橋 字 入 道 久 保		○	○					打製石器	
67-30	仮 屋	新 橋 字 仮 屋		○				○		土師器	
67-31	稗ヶ迫 A	新 橋 字 稗ヶ迫		○				○		御領式・土師器	

第2表 遺跡地名表

番 号	遺 跡 名	所 在 地	時 代							遺 構 ・ 遺 物	文 献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中生	近世		
67-32	中山 A	新橋字中山		○						黒曜石	
67-33	堀之内	泰野字堀之内		○				○		市来式・黒曜石・土師器	
67-34	黒石崎	尾野見字黒石崎		○						出水式・敲石・石剣	
67-35	井手段Ⅲ	尾野見字中村井手		○						岩崎上層式	
67-36	百 田	新橋字百田		○						上加世田式・打製石斧	
67-37	横 溝	新橋字横溝		○				○		磨製石斧・土師器	
67-38	牧ノ原 B	新橋字牧ノ原		○				○			
67-39	大 原	新橋字大原		○	○			○		入来式・土師器	
67-40	後ノ谷	新橋字後谷		○				○		土師器	
67-41	水流知	新橋字水流知		○				○		土師器	
67-42	蕨 野	新橋字蕨野		○				○		土師器・打製石斧	
67-43	入道久保 C	新橋字入道久保		○				○		土師器・須恵器	
67-44	稗ヶ迫 B	新橋字稗ヶ迫		○	○					石斧・岩崎式・弥生壺	
67-45	中山 B	新橋字中山		○	○					入来式	
67-46	黒石Ⅱ	尾野見字黒石		○							
67-47	牧ノ段	新橋字牧ノ段		○							
67-48	井手間	新橋字井手間		○	○			○		押型文・弥生住居	
67-49	梨 木	新橋字梨木		○				○		土師器・青磁・鉄滓	
67-50	大 窪 B	新橋字大窪垂門		○				○		土師器	
67-51	後 谷 B	新橋字後谷		○							
67-52	後ノ谷	新橋字後谷		○							
67-53	前 谷	新橋字前谷		○				○		春日式・住居跡・堀立	
67-54	砂 田 C	新橋字砂田		○				○		土師器	
67-55	黒石Ⅰ	尾野見字黒石		○							
67-56	豊 留	新橋字豊留					○			打製石斧	
67-57	大 窪 A	新橋字大窪					○				
67-58	狩 川 A	新橋字狩川					○			打製石斧・磨製石斧・敲石	
67-59	内ノ野	新橋字内ノ野					○			石斧・石鏃	
67-60	柿木瀬戸	泰野字柿木瀬戸					○			打製石斧	
67-61	六日畑	泰野字六日畑					○	○		山ノ口式・打製石斧	
67-62	中村手岡	尾野見字中村手岡					○			打製石斧	
67-63	鳩 窪	尾野見字鳩窪					○			山ノ口式	
67-64	井手段Ⅰ	尾野見字中村井手					○				
67-65	砂 田 B	新橋字砂田					○				
67-66	川 路	新橋字川路					○			打製石斧	

第3表 遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中生	近世		
67-67	栗須田	新橋字栗須田				○					
67-68	尾野見	尾野見				○					
67-69	桐ノ木	尾野見字桐ノ木				○					
67-70	瀬戸地下式横穴	泰野字柿木瀬戸					○			地下式横穴	
67-71	竹下	新橋字竹下						○		土師器・須恵器・青磁	
67-72	四ツ枝	新橋字四ツ枝						○		土師器・須恵器・青磁	
67-73	垂門C	新橋字垂門						○		土師器	
67-74	下迫B	新橋字下迫						○		土師器	
67-75	牧ノ原A	新橋字牧ノ原						○		土師器	
67-77	後谷C	新橋字後谷									
67-78	狩川C	新橋字狩川						○		須恵器	
67-79	清水迫	新橋字清水迫						○		土師器	
67-80	川東	泰野字川東						○		土師器・須恵器	
67-82	垂門B	新橋字垂門			○			○		土師器	
67-83	前之窪	新橋字前之窪			○			○		土師器	
67-84	泰野城跡	新橋字京ノ峯									
67-85	松山城跡	新橋字松尾								文治4年(1188年) 隠岐守重頼築城	
67-86	銭ヶ迫一里塚	尾野見字百木銭ヶ迫									
67-87	柏木門四郎の墓	尾野見字柏木									
67-88	中原一里塚	尾野見字中原									
67-89	泰野の石敢当	泰野									
67-90	馬場の庚申塔	新橋字馬場									
67-91	豊留の田之神像	新橋字豊留									
67-92	豊留の板碑	新橋字豊留									
67-93	前谷B	新橋字前谷		○	○	○				縄文晩土壙・弥生住居	
67-94	香之田	新橋字狩川		○						塞ノ神式	
67-95	宮田	新橋字宮田上									
67-96	水ノ谷	新橋字水ノ谷									
67-97	鏡段	新橋字鏡段									
67-98	大丸	新橋字大丸									



第2図 宇都 A 遺跡他位置図

第3章 調査の概要

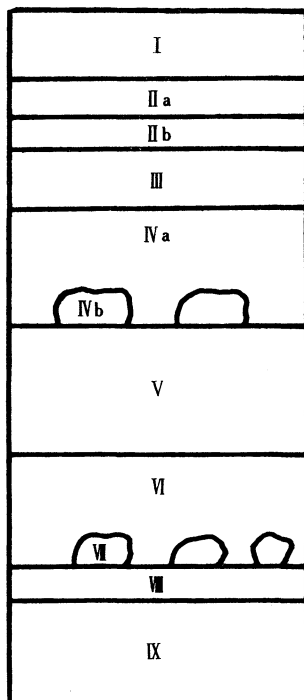
第1節 調査の概要

宇都A・B・C遺跡の調査区域は、菱田川の支流松尾川によって開析された標高約180mのシラス台地上に位置している。平成3年に発掘調査が行われた牧ノ原遺跡は宇都A・B・C遺跡の北西側にあり、平成2年に発掘調査が行われた水ノ谷遺跡は宇都A・B・C遺跡の南東側にある。また平成元年に調査が行われた香ノ田遺跡は遺跡の南側に位置する。

発掘調査は、分布調査で確認された部分で、道路工事計画内に4m×2mのトレンチを基本として14ヶ所設定して行った。14ヶ所のうち、14トレンチのⅢ層及びⅣ層上面より縄文時代中期の土器が出土した。また、13トレンチからは土層の横転現象が確認された。

第2節 標準土層

- I層 暗褐色耕作土。
- II a層 暗褐色腐食土層。細かなパミスを含む。
- II b層 暗褐色腐食土層。
- III層 明黄褐色軽石質火山灰土層。



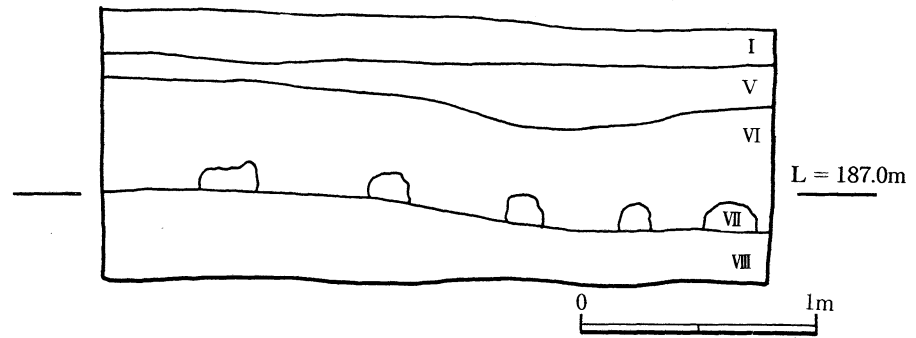
第3図 標準土層

- IV a層 暗褐色腐食火山灰土層。直径1cm前後の黄橙軽石を含む。IV b（アカホヤ）層の二次堆積層と思われる。
- IV b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさずV層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。
- V層 灰褐色火山灰土層。直径の1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。V層との境は不明瞭で漸移している。
- VI層 黒褐色火山灰土層。直径の5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。V層との境は不明瞭で漸移している。
- VII層 黄橙火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、VI層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。
- VIII層 明褐色粘質土層。きわめて細粒の粘質を帯びたソフトローム層である。

第3節 各トレンチの調査

1 トレンチ

1 トレンチは2m × 3mの長軸が北西、南東を向き、標高187mの全体的北東に傾斜する畑地に設定したトレンチである。畑地の南西側から北東方向に畑地の造成を行っているため、V層から上

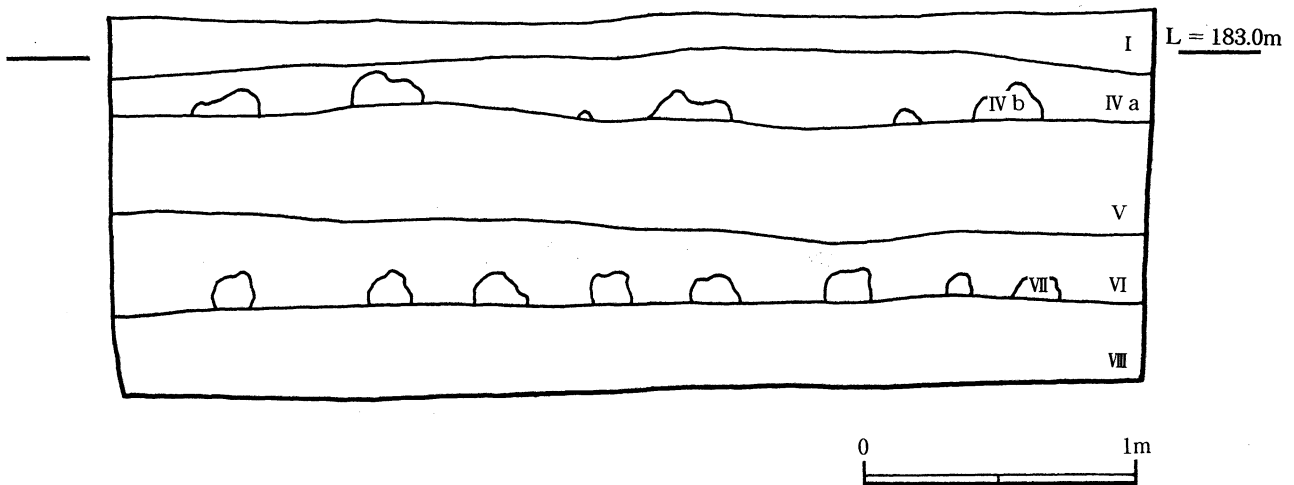


第4図 1 トレンチ北壁断面図

既に削平されていた。出土遺物、遺構ともに確認されなかった。

2 トレンチ

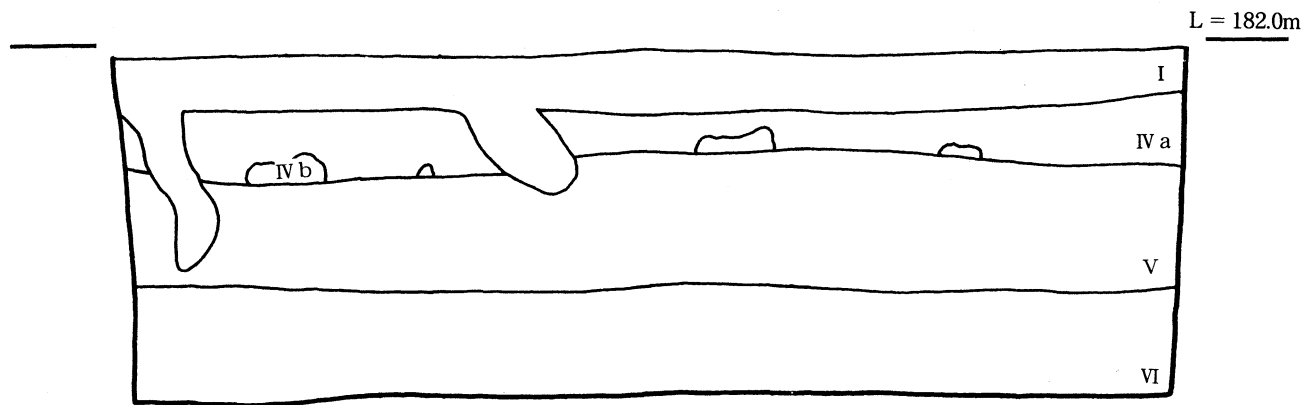
2 m × 4mの長軸が東西を向く、標高183mの東側に若干傾斜する畑地に設置したトレンチである。この畑地も既に東側に向けて造成が行われたらしく、IV b層から上層が削平されていた。遺物遺構ともに確認されなかった。



第5図 2 トレンチ南壁断面図

3 トレンチ

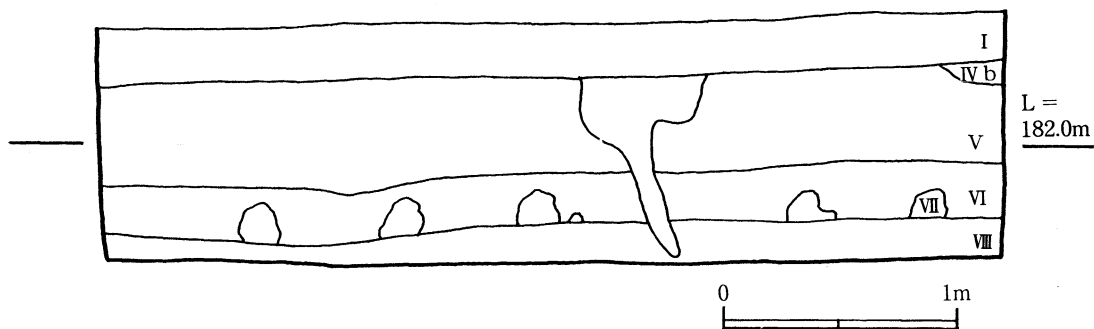
2 トレンチと同じ畑地で、2 トレンチの北東約50mに位置し、2m × 4mの長軸が南北を向くトレンチである。2 トレンチ同様IV b層から上層が既に削平されており、遺物、遺構ともに検出されなかった。



第6図 3トレンチ南壁断面図

4トレンチ

馬蹄状になつた調査区域のほぼ中央部の標高182mの畑地に位置し、2m × 4mの大きさ

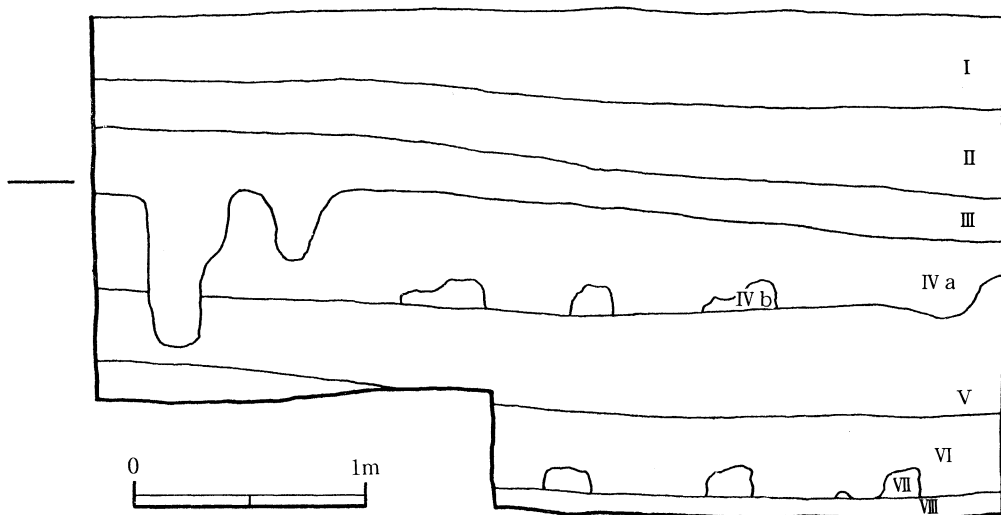


第7図 4トレンチ南壁断面図

で設定したトレンチである。長軸は東西を向く。この畑地も土地所有者によって数年前に南側にむけて造成が行われており表土直下はV層であった。トレンチの北側にIV b層の落ちこみと中央部に攪乱が認められたが、性格は不明である。

5トレンチ

4トレンチと同じ畑地で、4トレンチの南東約50mに位置し、2m × 4mの大ききで設定したトレンチである。長軸は北東から南西を向く。過去の造成により

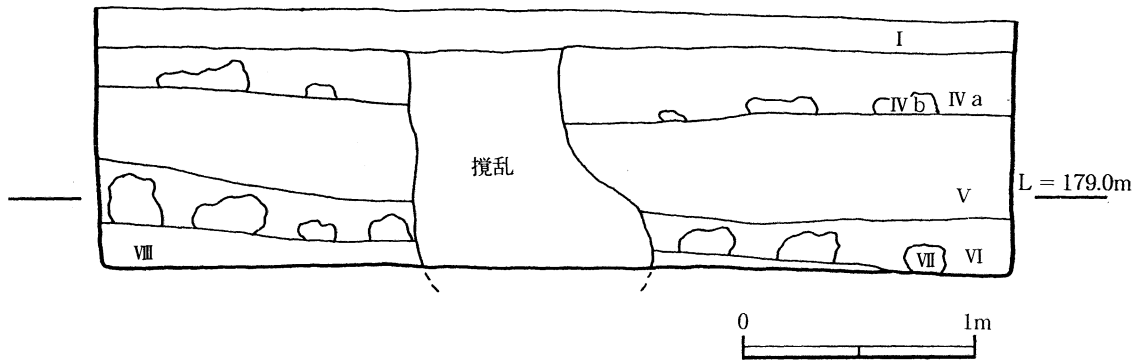


第8図 5トレンチ東壁断面図

盛土を施してあるため、層の残りが良好であった。IV層からV層にかけてIII層からの落ちこみが確認されたが、遺物は認められず性格は不明である。出土遺物はない。

6 トレンチ

5 トレンチの南西約40mに位置し、標高180m畑地に2m×4mで設定した



第9図 6 トレンチ北壁断面図

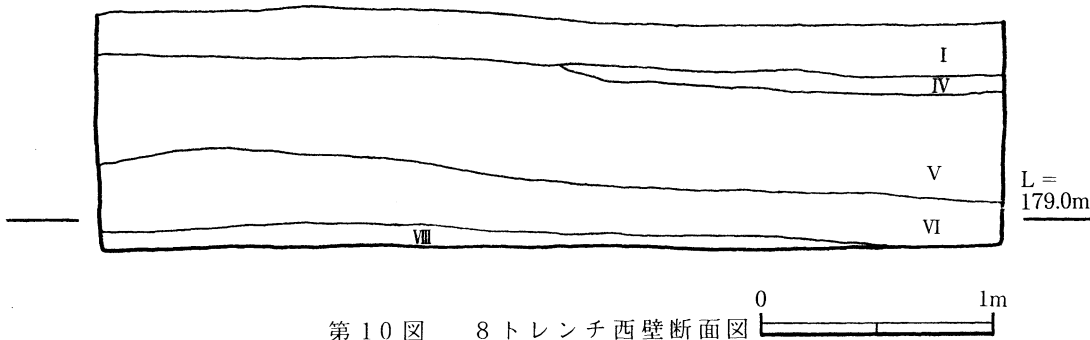
トレンチである。長軸は東西を向く。この畑地も過去に造成をうけており、層の残りは悪く表土直下はIV b層であった。トレンチ中央部にIV b層からの落ちこみが認められたが、遺物等は出土しなかったため性格は確認できなかった。

7 トレンチ

6 トレンチの南約50mに位置し、2m×4mで設定したトレンチである。長軸は東西を向く。表土堀上げ中に、過去の造成で約1mから1m50cmの盛土を施したとの土地所有者の情報を得たため、調査を途中で中止した。そのため、トレンチの位置図のみを作成し、層位断面図、出土遺物、遺構はない。

8 トレンチ

標高180mの若干北側に傾斜する畑地に、2m×4mで設定したトレンチ

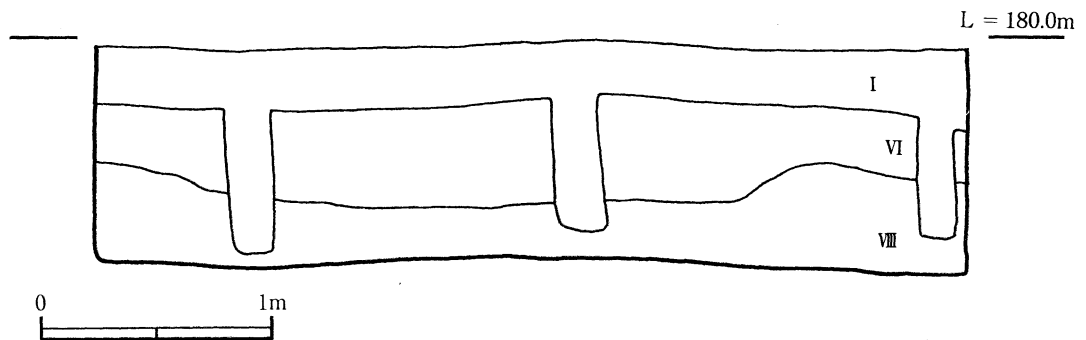


第10図 8 トレンチ西壁断面図

トレンチである。長軸は南北を向く。このトレンチも過去の造成によりV層から上層は既に削平をうけている。また、VII層の薩摩層は確認できなかった。出土遺物、遺構は検出されなかった。

9 トレンチ

調査区域の東南端に位置するとともに、舌状台地の先端にある標高約180mの畑地に2m×4mで設定し

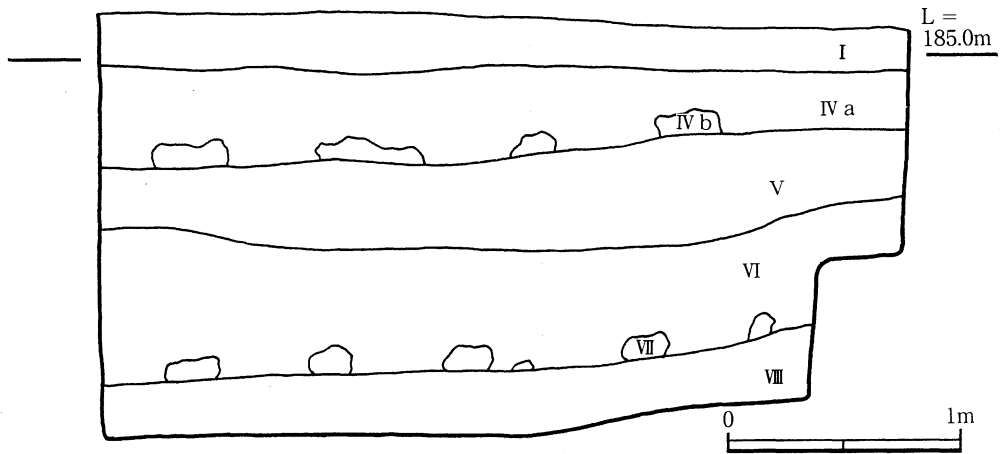


第11図 9 トレンチ西壁断面図

たトレンチである。長軸は北東から南西に向く。このトレンチも過去の造成により層の残りが非常に悪く、表土直下はVI層であった。トレンチを横に幅20cmの溝状遺構が検出された。遺構は表土より深さ70cmのVIII層まで達している。遺構の中より遺物を出土していないが、遺構の形状かと表土から掘込まれていることを考えると、ゴボウを栽培した際の遺構と思われる。このトレンチもVII層の薩摩層は確認できなかった。遺物は出土していない。

10 トレンチ

4 トレンチの北約50cmの全体的に南に傾斜する標高185mの畑地に2m×3mで設定したトレンチである。長軸は南北に向く。

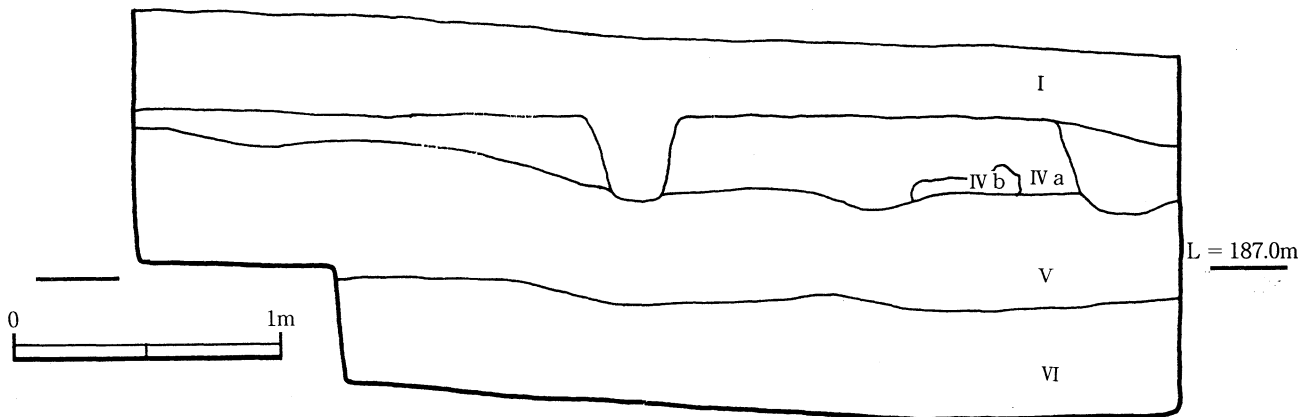


第12図 10トレンチ東壁断面図

このトレンチも過去の造成によりIV a層から上層は削平をうけている。出土遺物、遺構は検出されなかった。

11 トレンチ

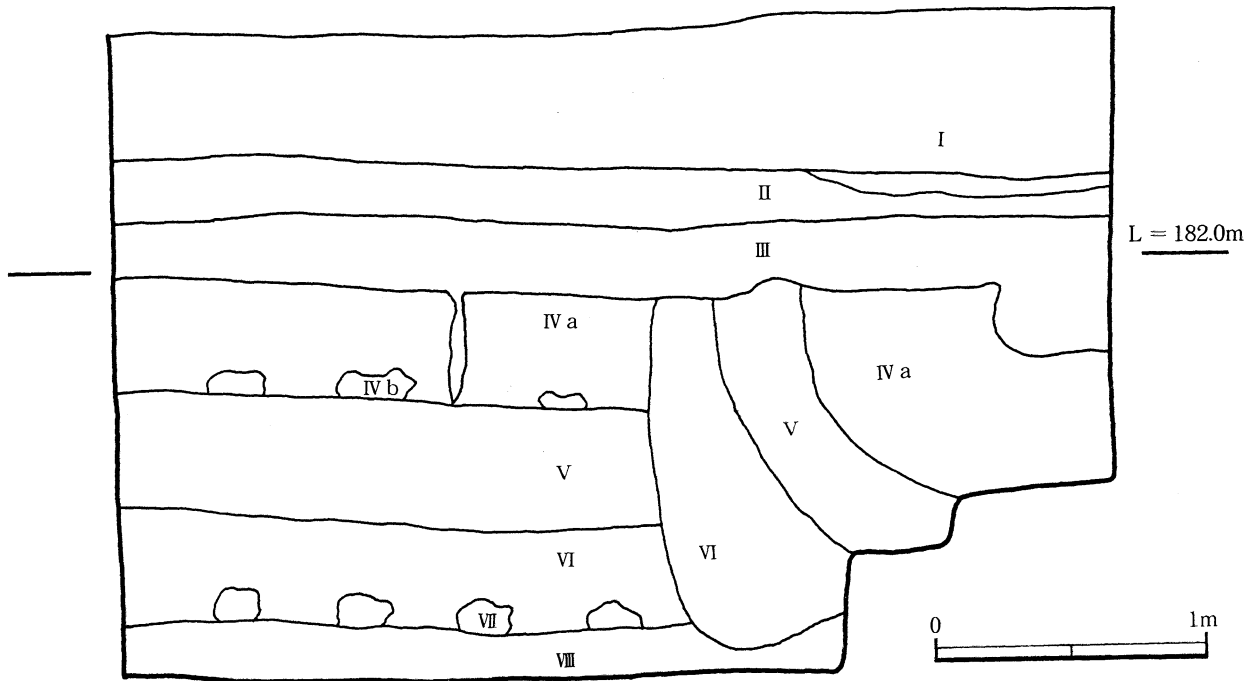
1 トレンチと10 トレンチの間に位置し、標高約187mの南東側に傾斜する畑地に2m×4mの大きさで設定したトレンチである。IV b層から上が畑地の造成によって削平されている。遺物は出土しなかったがトレンチの南東隅にIV b層とV層を掘込んだ落ちこみが認められたが、性格は確認できなかった。またトレンチの中央部に表土からの落ちこみを確認したが、比較的新しい時期の遺構と思われる。



第13図 11トレンチ東壁断面図

12 トレンチ

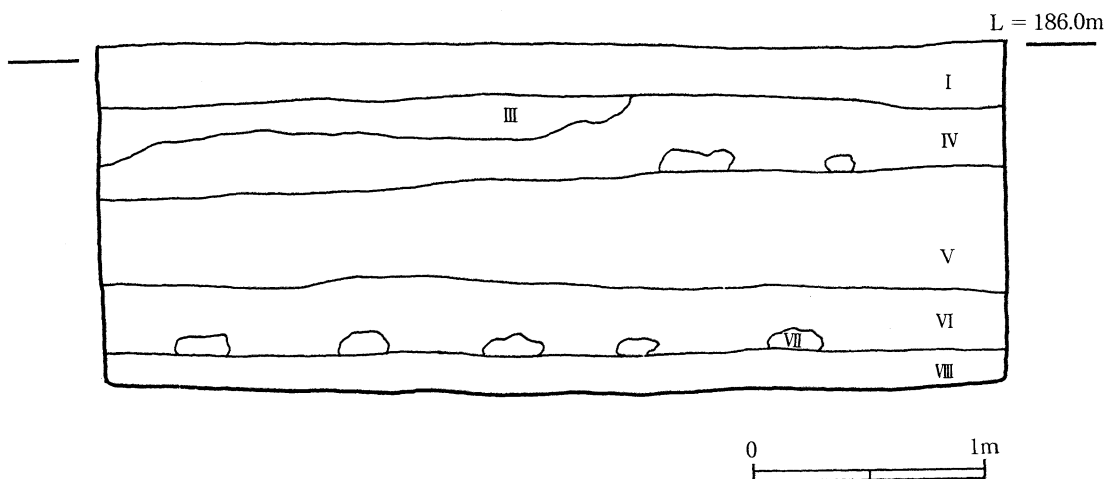
10 トレンチの東約60mにあり、10 トレンチと同じ畑地に位置する。標高約183mで2m × 4mの大きさに設定したトレンチである。畑地の造成により盛土されているため、層の残りはよい。トレンチの北東側にIV a層からVI層にかけて横転現象が確認された。遺物、遺構は出土していない。



第14図 12 トレンチ東壁断面図

13 トレンチ

2 トレンチ、3 トレンチと同じ畑地に位置し3 トレンチの南東約50mに位置し、標高186mで2m × 4mの大きさに設定した

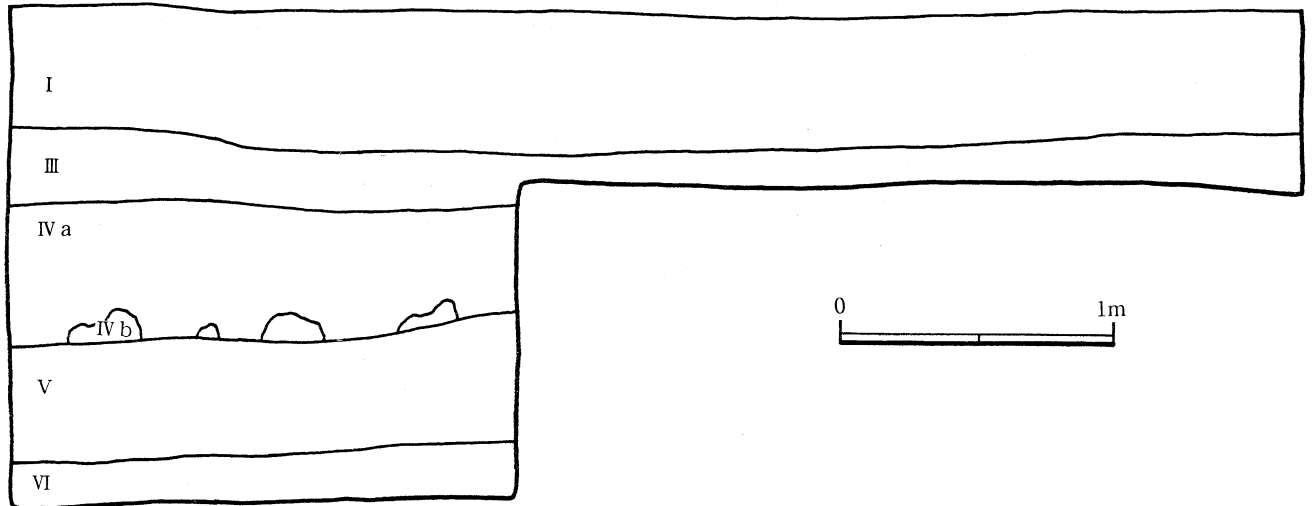


第15図 13 トレンチ北壁断面図

トレンチである。畑地の造成によりIV b層から上層が既に削平されている。遺物、遺構は確認されなかった。

14 トレンチ

調査区域の東端で舌状台地の先端に位置するトレンチである。標高は178mで2m × 4mの大きさである。層の残りは非常に良好で、Ⅲ層からⅣa層にかけて土器片が多数出土した。

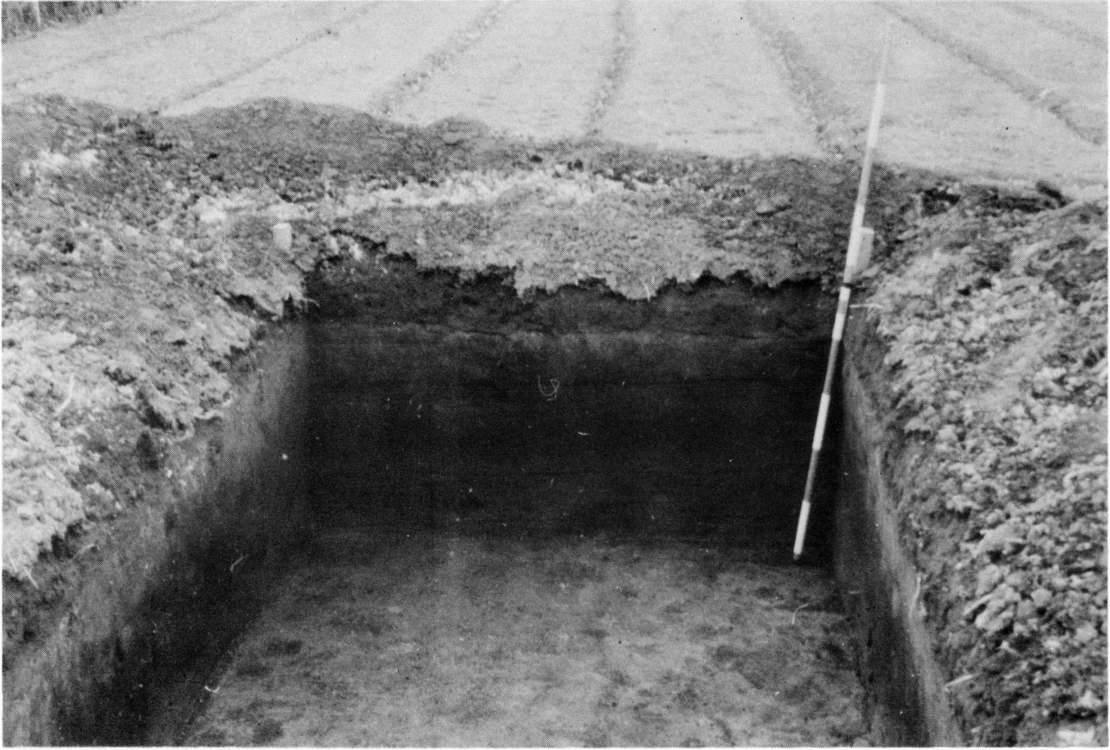


第16図 14 トレンチ北壁断面図

第4章 まとめ

今回の調査で遺物が確認されたのは第14トレンチだけであった。遺物はⅢ層から出土し、一部Ⅳa層からも縄文時代中期の土器片が出土した。遺跡の東側は残りが良いが、遺跡の南西側は個人的畑地の造成によって既に削平されており、土器片が畑地の土層にみられる状態であった。14トレンチから出土した土器は外面に櫛描状の沈線を施文する大平式であると思われる。大平式は泰野の京ノ峯遺跡からも出土しており、本町では二例目になる。

第12トレンチでは、土層の横転現象が確認されたが本町では平成元年に発掘調査が行われた牧ノ段遺跡において第1トレンチより確認されている。原因は不明であるが、倒木などが考えられる。



図版1 4トレンチ東壁断面図



図版2 9トレンチ西壁断面図



図版3 10トレンチ東壁断面図



図版4 14トレンチ遺物出土状況

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)

宇都 A 遺跡
宇都 B 遺跡
宇都 C 遺跡

1994年3月

発行 松山町教育委員会
〒899-76

鹿児島県曾於郡松山町新橋268

印刷 志布志新生社印刷

